

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 高校生活のあらゆる場において、ひたむきに自己の可能性を追求できる視野の広い、心豊かな青年を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇教務	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位制に移行し、1年次では全ての授業が少人数で行われているのだが、生徒・保護者ともに「本校では、教科により習熟度別授業や少人数授業があり、それが学習の理解につながっている」の項目の数値にほとんど変化がない。また、保護者の「授業を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」で1年次の保護者に「わからない」が多く、学校の取り組みが伝わっていない。1年次の授業者からは一人一人に目が届きやすく、学習状況が把握しやすいと少人数授業の効果を実感している声が聞かれる。</li> <li>・生徒へのアンケート調査の教職員の項目で「熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い」「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い」は昨年度、前年比マイナスになったが、今年度は少し回復した。来年度もさらなる回復に努めたい。「専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い」「授業の教え方や説明がわかりやすい」については、今年度もマイナス傾向にあり、大きな課題である。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇少人数授業・習熟度別授業の充実や効果的なAL型授業を含め、授業力向上を図るとともに、評価方法のさらなる研究、学習到達度の設定などをテーマに授業改善に努める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・カリキュラム委員会を中心に上記の重点目標をテーマとした校内研修を教科会との連携のもと、企画委員会、職員会で周知し実施していく。特に本年度は県から研究指定も受け3年目となる。「昨年度のAL型授業をさらに洗練させること」、「評価方法の研究を行うこと」等、「アクティブ・ラーニング推進」について昨年を引き続き取り組んでいく。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 少人数・習熟度別授業の実施、評価方法のさらなる研究</li> <li>(2) 自宅学習3時間以上の目標</li> <li>(3) (1) (2)を達成させるため教科会の充実、授業力の向上を含めた教育力の向上</li> <li>(4) 「アクティブラーニング」を活かした効果的な授業方法・評価方法の研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒・保護者による授業評価および授業に関するアンケート</li> <li>(2) 生徒の自宅学習時間調査の結果</li> <li>(3) 生徒懇談、保護者懇談会等での意見吸収</li> <li>(4) 単位未修得者数、定期考査、対外模試での成績評価</li> <li>(5) 学習指導委員会や教科研究会での評価・反省</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期・後期にそれぞれAL型授業を中心とした公開授業週間を実施。期間内に研究授業・教科研究会を実施</li> <li>・全教科において前期終了時に授業評価の実施</li> <li>・自宅学習時間3時間以上を目標として授業内容、課題を設定</li> <li>・各教科でアクティブラーニングにあわせた評価方法の研究を徐々に進めていく。具体的にはルーブリックの研究をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各教科内で活発に授業参観が実施され、研究授業後の教科研究会が有意義なものとして実施されたのか</li> <li>②授業評価結果が授業改善へと活かされているのか</li> <li>③自宅学習時間が目標の3時間を超えたか（自宅学習時間調査）</li> <li>④評価の研究ができたか</li> </ul>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>A B Ⓒ D</p> <p>Ⓐ B C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本年度は昨年の反省を活かし、アクティブラーニング型授業の研究を目指した。各教科会にその工夫や方法を検討し、研究授業での実践を依頼した。また昨年同様アクティブラーニング推進委員会が中心となり、外部の多くの情報を共有しながら、各教科で、授業実践・改善を繰り返した。授業評価についてもルーブリックの蓄積も進め、その意味や必要性を多くの教員が学ぶことができた。</li> <li>○マークシートを使用した全職員の担当2クラスにおける生徒による授業評価を実施。各教員の反省・点検にも繋がった。アンケートを集計する中で各学年、各教科の傾向や課題もわかった。</li> <li>△自宅学習時間調査について、昨年度から定期テスト前の1週間で「自宅学習時間調査」を行った。（年5回）結果は、昨年とほぼ同様な学習時間であった。ただ</li> </ul>	
		総合評価 A Ⓑ C D

	<p>その内容が充実したものであったか等、適切にその時間が使われているかが問題である。</p> <p>●少数・習熟度別授業の効果を生徒に実感してもらえるような授業内容や進め方等を検証する必要がある。新入試への対応を意識した授業改善を進める。</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>これまで月曜7限に設定されていた「総合的な学習の時間」は取り組みが飛び飛びになってしまっていた。来年度は新学習指導要領により「総合的な探究の時間」となることもあり、木曜6限に授業を設定し、コンスタントに探究活動が行えるようにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究指定は今年度で終了するが、その成果を継続し、さらに進めていきたい。また、従来型授業も含めて、今後のあるべき授業について模索したい。“教員の授業力向上”や“教員力向上”について学校全体で取り組んでいかなければならない。基礎・基本を定着させ、家庭学習時間3時間の確保を継続して目標としたい。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月12日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は3年夏直前（部活動引退後）にしか先のことが考えられないことが多いが、早く目標を見つけられると、やる気が出て、家庭学習の時間も多くなる。いかに生徒をその気にさせ、やる気を持たせるかが大切である。</li> <li>・自然科学の課題研究発表で、データに基づいて意見を述べることの大切さを伝えていたが、それは社会でも大切なことである。</li> <li>・教師の実感を大切にして、生徒の変化の把握することが大切である。</li> </ul>
--

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号	43
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。 スローガン 「一人一人の文武両立」「さわやか挨拶多治高生」	
2 評価する領域・分野	◇進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「総合的な学習の時間」について、1年生生徒の「A,B」評価が特に低い。さらに1年生の26%が「わからない」と回答。1年生では教科分担での総合的な学習の内容が十分に認知されていない。年度初めにガイダンスを実施したが、それだけでは十分でないことがわかった。来年度は「総合的探究の時間」として、今まで以上の内容の充実が求められるため、運営方法と内容の改善を図りたい。 「サタスタ・補習」に関する項目での評価が低調であった（生徒・保護者とも）。教員の指導力に対する信頼感も低下しているような結果が見受けられることから、実施方法の見直しとともに、教員の指導力向上を図る工夫も必要である。また学年別で見ると、2年生徒の回答に「A」評価が少ない。学習指導や進路指導が生徒の実態とかみ合っていないのではないかと。3年生進級前に学年団と協力し、生徒が望む進路を実現できるように、適切な道筋を示すことが必要である。 情報提供等については、過去3年にわたり進路説明会や進路講演会等の機会を増やしてきた成果もあり、少しずつではあるが評価が上昇傾向にある。今後は更なる内容の充実を図っていきたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇目標明確化と評価過程充実を図り、指導内容・方法を改善する。 ◇「開かれた進路指導」を推進する。 ◇生徒一人一人が自己効力感・有用感を保持しつつ進路選択を検証することができるように指導と援助を使い分け「キャリア発達」を促す。 ◇入試改革に関する情報を把握し対応できる指導方法を研究する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部会での情報交換、協議をもとにした進路指導の推進。 ・進路情報の収集と学年会との連携、および職員への情報提供。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) データ分析による研修・検討会実施 (2) 授業・補習等を通じた入試多様化への対応 (3) 情報発信の充実と外部環境活用拡大の推進 (4) 進路選択のための情報入手と検証機会充実 (5) 変化・現状に柔軟に対応した指導体制作り	(1) 模試、入試での生徒成績・結果を分析する。 (2) 授業評価、補習等の参加状況を分析する。 (3) 各種行事の参加状況やアンケートを分析する。 (4) 説明会等の感想・アンケートを分析する。 (5) 外部研修会への参加と職員研修の実施。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・キャリアノートの導入とその評価 ・進路説明会の実施と外部講師の活用 ・模試の分析および補習・サタスタにおける効果的指導の工夫 ・メール配信による保護者への連絡・情報提供	①学校の進路の数値目標達成 ②生徒・保護者の評価結果 ③生徒の実態に応じた事業推進	A B <b>C</b> D A B <b>C</b> D A <b>B</b> C D
11 成果課題	○キャリアノート導入（1年）により、生徒の計画性向上。および新入試への最低限の対応準備ができた。（記録のデジタル化については今後の課題） ○小論文模試実施（希望者）、小論文・志望理由書の教材準備は効果的であった。 ▲3年生の大学入試ガイダンスでは、参加数が少なく効果が薄かった。 ▲データ分析ができる人材が不足。有益な情報を提供できる機会が少ない。 ▲総合的な学習の時間の在り方について更なる改善が必要。	
12 来年度に向けての改善方策案	① 国公立大学のAO・推薦入試への意識付け、対策を3年生の早期から開始する。 ② 「総合的な探究の時間」を改善。2年生ゼミ学習は「担当者会」など設けての情報交換や指導方法研究などをおこなう。 ③ 受験態勢へスムーズに移行できるよう、職員一丸となって取り組む。 ④ 大学別入試説明会の見直しをするとともに、参加者拡充への働きかけを工夫する。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月12日

<b>【意見・要望・評価等】</b> ・（受験勉強への取り組みについて）早い段階で準備をするように仕掛ければ、それだけ早く受験態勢
--

に入っていけるのではないか。

- (教師側への低評価に対して) 裏を返せばそれだけ学校への期待が大きいということであるので、期待に応えられるよう改善を図るべきである。
- 生徒の実態が変化してきたかどうかは中長期的な視点で見る必要がある。短期的な視点での評価だけでなく長い目で見た観察・対応が大事ではないか。
- 外部機関との連携を図ったゼミ学習は学習効果が高く評価できる。例えば勤務している会社でも土岐川の清掃活動など行っており、そのような取り組みを行なっている企業等は意外に多い。今後も範囲を広げた学習活動の継続を期待する。
- 自然科学コースの課題研究発表は良かった。データをとり客観的な事実に基づいて結論を述べるということは社会人でも大事なことであり、今後も何かの形(次年度の総合的探究の時間など)で同様の学習が継続されることを期待する。

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校 学校番号 43

## I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。 スローガン 「一人一人の文武両立」「さわやか挨拶多治高生」		
2 評価する領域・分野	◇生徒指導（教育相談）		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒・保護者評価ともに多くの項目において肯定的評価が70%前後で推移しており、落ち着いた学校生活を送られている生徒の姿が数値に現れている。 ・教育相談体制は外部的に評価されにくい、相談や問題への早期対応、SCや外部連携など組織的かつ機能的に対応できている。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・生命尊重と主体的に判断し行動できる生徒の育成。安全意識高揚。 ・生徒指導、教育相談、特別支援を意識した組織的対応の充実。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・報告・連絡・相談の連携と生徒情報の共有、共通理解による指導。 ・教育相談体制の充実と学年会や他分掌との連携。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) あいさつ運動、身だしなみ確認週間、遅刻防止、スマホの使用と情報モラル指導。 (2) 「通学路ハザードマップ」の作製と継続的な交通安全指導、不審者に対する注意喚起。 (3) SCによる月例カウンセリングと教育相談講話。複数回調査によるいじめの未然防止。	(1) 育友会、生徒の評価アンケートなど (2) 統計による内容と頻度の年度比較 (3) 生徒と職員の評価		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・MSLと部活動のあいさつ運動と月例の「身だしなみ確認週間」での全教員輪番での指導。 ・新入生への指導と交通安全講話。教員による月2回交通安全登校指導。不審者情報提供。 ・生徒や保護者を対象としたスクールカウンセリングや外部機関との連携。教育相談講話。	(1) 生徒の主体的な取り組みと全職員の協力体制による継続的指導。 (2) 各種統計の年度比較。 (3) 生徒、保護者の評価、意見。	A B C D A B C D A B C D	
11 成果課題	○MSLを中心にあいさつ運動、啓発活動、清掃活動などをおこなった。 ○生徒指導部が推進している、いじめ、身だしなみ、あいさつ、交通安全、情報モラル等の指導が生徒意識に定着してきており、落ち着いている。 ○教育相談では多くの問題に保護者やSC、外部機関と連携し細やかな支援をおこなっている。 ▲問題を抱える生徒の増加や問題の多様化により担当の負担が重くなっていること、定例カウンセリング回数が少ないことが課題としてある。		総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案	・あいさつ指導から運動へ繋げ、主体的に判断し行動できる生徒および自己有用感の育成。 ・生徒指導について職員が共通意識を持ち、共通行動、統一指導できる体制の継続。 ・生徒指導、教育相談、特別支援を意識した組織的対応の更なる充実。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月12日

【意見・要望・評価等】 ・多治見高校の生徒には公民館も大変世話になっている。市の広報等を利用して積極的PR協力したい。 ・あいさつは企業でも高校生に学ぶべき面があり、企業努力すべきところは同じ。 ・知った方々にはあいさつできるが、知らない人にはしない(できない)人が増加している。 ・学校自体に落ち着いた環境(雰囲気)が感じられる。反面、元気のない印象もあり、意思表示のできない社会人が増加していることと関係性があるのかも感じる。 ・不登校や心の問題は社会でも同じことがある。ストレスに弱い人が増えた。部活動や学校行事、地域主催のボランティア活動など、楽しいことに積極的に参加させてみてはどうか。
---

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号 43

## I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。 スローガン 「一人一人の文武両立」「さわやか挨拶多治高生」	
2 評価する領域・分野	◇特別活動部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「部活動」について、活発に行われていると回答した割合（AB評価）生徒76%、保護者80%の数字からすると満足度は高いと読み取ることができる。また部活動の加入率は2年生93.7%、3年生94.3%と高く、生徒の部活動に対する意識は高いと考えられる。一方で「学習と部活動の両立」に関する項目では、ABの肯定的評価が保護者64%、生徒48%で、生徒と保護者で捉え方に差がある。数値の良化とともに、文武両立実現のため学習と部活動のどちらに偏っているのかを見極めながら、改善を図る必要がある。その上で、今後の部活動のあり方について、働き方改革や国・県によるガイドラインを踏まえ、学校の特性を活かせる形を検討したい。</li> <li>・ボランティアに関する生徒の評価が上がった（生徒44%で+7%、保護者41%で±0%）生徒の肯定的評価はわずかに増加しているが、50%を下回っており、さらなる参加の促進が必要である。</li> <li>・学校行事について生徒のAB評価は84%と高く、保護者でも77%を占める。生徒に対する行事後のアンケート結果でも、すべての行事で95%以上の生徒が「充実（満足）」と回答している。今後も生徒が満足感を抱ける行事を生徒主体で運営していきたい。また、「生徒会活動について活発であるか」の回答が+7%で、行事運営に対する生徒評価で95%以上が生徒会の運営を高く評価していること、ホームページの積極的な更新や生徒会新聞の発行など広報活動の成果がその背景にあると考えられる。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇生徒の自主性・主体性を育成するための取組や活動を推進する。</li> <li>◇決まりを守り、仲間と切磋琢磨しながら礼節を大切に、「文武両立」ができる生徒の育成をめざす。</li> <li>◇生徒一人一人が達成感や満足感を味わえるような行事や活動を行うことで、自己有用感を育てる。</li> <li>◇地域の活動やボランティアへの積極的な参加を促し、社会貢献活動を推進する。</li> <li>◇生徒、保護者、地域に対して、学校の取組を理解してもらえるよう積極的な情報発信を行う。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動部会での協議を通して、意思疎通を図り、協力して取り組む。</li> <li>・部活動・委員会活動の活性化のため、他分掌や学年、教科との連携を図り、協力体制を充実させる。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒が達成感や満足感を感じられる行事になるように活動しやすい環境を整えることで、高い志とチャレンジ精神で臨み、夢を実現できる力の育成に努めます。 (2) HR活動・生徒会活動・部活動等、生徒の自治活動を支援することにより、生徒の自主性や自立心及び人間関係形成能力を育てます。 (3) 学習とともに部活動への積極的な参加を促すとともに、特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高めるように努めます。 (4) 地域行事等の機会を利用した貢献活動（ボランティア活動等）への積極的な参加を推進し、思いやりの心・進んで奉仕する心を養うことで、心豊かな生徒の育成に努めます。	(1) 各行事に対する生徒アンケートで評価します。（満足度85%以上） (2) 生徒及び保護者アンケート調査の「学習と部活動の両立」の項目、LHRの実施状況報告、生徒アンケート（満足度80%以上）、部活動の加入状況及び活動状況、成績等、委員会の活動実績で評価します。 (3) 生徒及び保護者アンケート調査で評価します。（A・B評価70%以上） (4) ボランティア活動への参加者数や生徒の活動報告、生徒及び保護者アンケート調査で評価します。（目標参加者200人、A・B評価60%以上）	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 生徒会を中心とする学校行事の企画・運営と参加	(1) 行事ごとのアンケート	Ⓐ B C D

<p>生徒の積極的な取組を推進する。</p> <p>(2)多治高活性化プロジェクト（学校長と生徒会の座談会）を開催し、学校活性化のための生徒による提案を行う。</p> <p>(3)部活動加入状況・活動状況調査による状況把握を行う。</p> <p>(4)対外的行事等への積極的な参加を促進する</p>	<p>(2)生徒会の活動状況と活動後の感想、アンケート結果</p> <p>(3)部活動の加入・活動取組状況 生徒会・委員会の活動取組実績</p> <p>(4)参加状況・取組状況</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>
<p>11 成果 課題</p>	<p>○学校行事の満足度は、スポーツ交流大会では「とても充実していた(61%)」「まあまあ充実していた(35%)」96%(昨年度94.0%、一昨年度93.5%)、桔梗祭「とても充実していた(69.2%)」「まあまあ充実していた(29.5%)」98.7%(一昨年度99.8%、一昨年度98.7%)、球技大会「とても充実していた(59%)」「まあよかった(38%)」97%(昨年度89%、一昨年度97.0%)であった。いずれの行事でも「充実(満足)度」は高く、多くの生徒が満足感を示す結果となった。</p> <p>○生徒会執行部による本校の活性化のための意見交流については今年度、学校長との座談会を実施した。さまざまな提案をする中で、生徒会が主体的に動き、7月の豪雨災害義援金のための募金活動を行うに至った。また、昨年に引き続き、養正小学校、多治見中学校でのあいさつ運動も継続し行うことができた。</p> <p>▲ボランティア活動など対外的な行事に生徒会執行部やMSリーダーズ、各部が積極的に参加した。しかし、その活動を広く認知してもらうことができていない。より多くの生徒・保護者、地域の方々への広報を今年度以上に行っていきたい。もっと地域・保護者の方に本校のホームページを見てもらいたい。</p>	<p>総合評価</p> <p>A Ⓑ C D</p>
<p>12</p>	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「HAVE A DREAM PROJECT」として学校行事や地域活動への参加を通して、多治見高校生としての高い志とチャレンジ精神を育み、自信と誇りをもたせ、自己有用感を高めさせながら、自己の夢を実現させる取組を推進する。</li> <li>・多治高活性化プロジェクト（学校長と生徒会との座談会等）を引き続き開催していくことで、生徒の意見を学校運営に反映させ、魅力ある学校づくりに活かすよう努める。</li> <li>・満足度の高い学校行事や生徒会活動、部活動にするため、生徒の積極的・主体的な活動となるよう支援し、推進させていく。</li> <li>・本校生徒の活動の様子や活躍の姿を、ホームページや生徒会新聞、地域の広報誌などを通して、今年度以上により広く発信していく。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月12日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校長との座談会について、良い取組であり、そこで話し合ったことをすぐに行動に移しているところで、このような積み重ねが生徒の信頼を生む。今後も続けていって欲しい。</li> <li>・学校行事、部活動の評価が高いことは保護者として安心でき、嬉しい。個性が生かされ、認められると学校生活が楽しくなる。</li> <li>・ボランティアについて、地域の企業でも土岐川清掃を行っていたりするので、企業とコラボしてボランティア活動を行うことも良い。</li> <li>・多治見駅との連携について、春日井駅では高校と連携し「さわやかウォーキング」のコース設定を一緒にやっている事例もあり、協力できることがあれば高校生と一緒にやれば良い。</li> <li>・公民館でのボランティア等について認知度が低いこともあるので、参加を促せるように市の広報や情報提供シートを活用し、情報の提供を行い協力を呼びかけたい。また、生徒の頑張っている姿をもう少しPRしたり、公民館のHPにUPするなど協力していきたい。</li> </ul>
--

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇保健厚生 「保健管理」「安全管理」	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>防災対策マニュアルの周知等について、肯定的回答は生徒68%（前年度比-3%）、保護者84%（前年度比+2%）。ともに前年度並みではあるが、生徒の肯定的回答が保護者と比較し低い。特に生徒については、災害についての危機感、関心自体を高めていくことが必要。</p> <p>校内美化について、肯定的回答は生徒53%（前年比+5%）昨年まで50%を下回っていた校内美化についての肯定的回答が50%を超えたことは評価できるが、毎日生活、清掃している環境に対し、多くの生徒が肯定的に回答できないことは問題である。今年度、美化委員に対し、廊下掃除の講習や大掃除の徹底など一定の効果があつた取り組みは引き続き行い、全校体制で校内美化への意識が高まるよう啓発等実施していく必要がある。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自分の健康に関心を持ち、自己管理できる能力を育成する。</li> <li>・研修や訓練を通して万全な危機管理態勢を整える。</li> <li>・清掃活動を通して奉仕の心を育て、清潔で快適な環境を整備する。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員・生徒の救急救命研修、3回の命を守る訓練を計画・実施する。</li> <li>・年4回の安全点検を実施し危険・修繕箇所を把握し、事故災害等の発生しにくい環境を整える。</li> <li>・毎日の清掃に加え、季節や行事に合わせて大掃除を実施する。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 命を守る訓練や救急救命講習の実施</li> <li>(2) 危機管理の徹底と職員間の報告・連絡・相談の充実</li> <li>(3) 廊下・階段の重点清掃や大掃除の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 本校職員、講師による評価</li> <li>(2) 生徒及び保護者の学校アンケートによる評価</li> <li>(3) 生徒及び保護者の学校アンケートによる評価</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 1年生と職員に救急救命講習、3回の命を守る訓練の実施。</li> <li>(2) 年4回定期考査時の安全点検の実施、改善箇所のまとめ。</li> <li>(3) 廊下・階段の重点清掃と美化委員会活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 講習、訓練時等の様子</li> <li>(2) 安全点検の報告・まとめ</li> <li>(3) 生徒アンケート・点検</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p>
11 成果課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生と教職員に救急救命講習を実施した。</li> <li>○命を守る訓練を3回実施。（シェイクアウト訓練1回の実施）</li> <li>●防災マニュアルの周知に関するアンケートでは、生徒、保護者とも高い数字はあつたが昨年並みにとどまった。</li> <li>●校内美化に関するアンケートでは、改善傾向にあるものの肯定的意見が低い。</li> <li>○防災美化委員会による廊下・階段の汚れ落としは効果があつた。</li> </ul>	<p>A (B) C D</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>生徒ひとりひとりの校内美化の意識が低く、掃除の行届いていない箇所が目立つ。大掃除や重点清掃だけでなく、日々の全員清掃の意識を高めたい。</p> <p>ひとりひとりが「いつ災害がおきてもおかしくない」それぞれが命を守る行動がとれる危機感、意識・関心を高めることが必要。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月12日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害はいつ起きてもおかしくない。そういった意味でシェイクアウト訓練は良い。</li> <li>・災害時には通学路の様子など情報共有できると良い。（JR多治見駅）</li> <li>・清掃についてはひとりひとりの美化意識を高めることが必要。</li> </ul>
---